



2023年1月19日

各位

会社名 株式会社ボードルア
代表者名 代表取締役社長 富永 重寛
(コード番号：4413 東証グロース)
問合せ先 経営管理本部長 村上 海磯
(TEL 03-5772-1835)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2023年2月期から2026年2月期にかけての中期経営計画を策定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画の概要

(1) 対象期間

2023年2月期～2026年2月期

(2) 基本方針

IT社会の発展により、ITシステムは複雑化し、先端技術を取り入れたより専門性の高いサービスが必要な時代へシフトしてきました。このような時代背景もあり、より専門性のあるシステム会社が注目を浴びるようになってきており、当社はその中でITインフラストラクチャに特化した事業を展開しております。

ITインフラストラクチャ分野のサービスでは、高度な専門性を持った技術力が求められておりますが、この技術力を維持、強化するためには継続的な従業員教育が極めて重要となります。

当社では、効率的な人材の育成と継続的な教育を重要な経営戦略と位置づけ、人材教育のナレッジを蓄積し、注力してきました。

このナレッジを活かした当社グループの成長の道筋を確かなものにするために、2026年2月期に売上高100億円を超える、中期経営計画「Beyond100」を策定いたしました。

引き続き計画的な採用・育成を行い、採算性の高い専門人材（※1）・高度専門人材（※2）の割合を増加させることにより中期経営計画の達成を目指します。

2023年2月期の予想数字をベースに、売上高・営業利益ともに年率+30%を目標とし、2026年2月期に売上高11,200百万円、営業利益2,000百万円を計画しています。

また、2026年2月期以降も高い利益成長を実現していくため、M&Aも実施いたします。売上高への影響は一部となりますが、のれん償却費を加味しても本計画の営業利益達成は可能となるよう実施してまいります。

尚、以下の重点施策により中期経営計画の達成に加え、更新を目指します。

① エンタープライズ顧客（※3）の拡大と深耕

エンタープライズ顧客においては、1社あたり平均売上が大きくなる傾向が見られることもあり、今後はこれまで蓄積してきた技術ナレッジをエンタープライズ顧客へ重点的に展開することにより、更なる売上の向上につなげたいと考えております。また、エンタープライズ顧客への展開により、下記(2)先端技術分野の拡大にも繋がると考えております。

② 先端技術分野（※4）への注力

高い成長性が期待される市場であるワイヤレス、ロードバランサー（※5）、ネットワーク仮想化（SDN）（※6）、クラウド（※7）、セキュリティなどの先端技術分野へ注力し技術力のさらなる強化に努めます。当社においても、先端技術分野の売上は年率20%前後で伸びております。このため、今後は引き合いの中で、先端技術分野に重点を置いた積極受注を行ってまいります。

2. 数値計画

単位：百万円

	2023年2月期	2024年2月期	2025年2月期	2026年2月期
売上高	5,100	6,631	8,620	11,200
営業利益	875	1,137	1,478	2,000

4. その他

2023年1月19日に開示する「事業計画及び成長可能性に関する事項」にも詳細を記載いたしますので、ご覧ください。

※1 専門人材

当社の人事評価上のクラス評価がサブリーダー以上、または、グレード評価がアソシエイト以上で、CCNP資格を保有する者（高度専門人材を除く）。

※2 高度専門人材

当社の人事評価上のクラス評価がリーダー以上、または、グレード評価がプロフェッショナル以上の社員で、以下に該当する者。

- ・ITコンサルタント、システムアーキテクト

- ・クラウド、セキュリティなどの先端技術者
- ・ブリッジSEやプロジェクトマネジメントを行うプロジェクト管理者
- ・高度プロジェクト、上流工程に携わるテクニカルスペシャリスト

※3 顧客セグメントについて

エンタープライズ：日経 225、日経 400、日経 500 のいずれかに採用されている企業、または売上 500 億円以上の企業

※4 先端技術分野

当社の技術分野の中で特に専門性が高いと考える先端技術領域。具体的にはワイヤレス、ロードバランサー、SDN、クラウド、セキュリティ、サーバー仮想化のいずれかの技術領域に関わるもの。

※5 ロードバランサー（英：Load Balancer）

サーバーにかかる負荷を、平等に振り分けるための装置またはその仕組み（ロードバランシング）。これによって、例えば Web サイトへのアクセス集中やサーバー故障などの場合でも、アクセス中の利用者に安定したサービス提供ができるなど、1 つのサーバーにかかる負担を軽減することができる。

※6 SDN（英：Software-Defined Networking）

SDN はソフトウェアによって仮想的なネットワーク環境を作る技術。ネットワークをソフトウェアで集中制御することで、ネットワーク構成や設定などを柔軟に動的に変更することができる技術のこと。SDN を導入することで物理的な制約に縛られず、ネットワーク構成の大幅な変更が可能となる。

※7 クラウド（英：cloud）

コンピューターの利用形態のひとつ。インターネットなどのネットワークに接続されたコンピューター（サーバー）が提供するサービスを、利用者が必要に応じて利用できる仕組み。クラウドサービスは、利用者側にハードの購入やソフトのインストールも不要であるため、アカウントがあればどの端末、どの場所からでもアクセスできる利便性が最大の特徴。

以上